

そういう関心が高く、ついで高松、興除村で、大州、仙北がこれら
の興味が最低である。結局しつけ方がきびしく干涉的な家庭のこと
もが必ずしも社会的意識が高いとは言えず、この資料ではむしろ自
由放任型の家庭のこどもの方がはるかにその意識が高いと言えよ
う。生産的圧力についてみると、時間で測定したところでは各地域
間に著るしいひらきがある。そうかといってレジャーの多い方がそ
れだけ多く勉強しているわけではない。

(大会抄録110
113頁)

「どもの形成と環境 (II)

日本女子大学

児玉省

宮本美沙子
小佐野和子

これは、環境と児童の学習との関連および、態度との関連をみよ
うとした研究である。文化的環境に差をもつと思われる六地域をと
りあげ、各地域の小学校五年生を対象に、家庭環境調査、単語検
査、知的理解力検査、道徳判断検査を行なった。

とりあげた学校 (1) 東京都千代田区某小学校五年一五八名。都内
の中心にある住宅街。有名校で区外からの越境通学者が約五〇%。

家庭は中流サラリーマン以上で、親も教育熱心。

(2) 足立区某小学校五年七七名。荒川土手近くの小工場地帯。ドブ
川が流れしており、文化施設に恵まれず、家庭は日雇いや内職ボロ集
めなどが多い。子どもは野放しの状態。

(3) 埼玉県川越市郊外の小学校五年百名。農業を家業とする児童に
ついてのみ調査。農村小学校としては比較的設備が近代的。以上の

他更に三小学校の児童の調査を行なったがここでは割愛する。

家庭環境の分析 家の文化性を六つの角度から検討した。(一) 文字
文化的なもの。家でとっている新聞、子ども新聞及び雑誌、子ども
のもつてている辞書を、各地域別に持っている%をもつて地方の文化
度とす。(二) 家具と楽器。タンスのようなどの家にでもあるものは除
き、比較的、近代的文化的性質をもつものをとりあげた。(例、テ
レビ、電話、冷蔵庫、電気掃除機、洗濯機他十六点) 同様に樂器に
つても、各家庭で持っている種類と数をとりあげその所有%をも
つて文化度とす。(三) 玩具。その持つている種類と数による%をもつ
て文化度を暗示するものとす。こどもの育成にとって玩具の持つ重
要性に鑑みてとくに玩具をとりあげたものである。(四) 家庭内の施設
的なもの。子ども部屋と風呂のあることを文化性につらなるものと
してその各々の%を計算。(五) 幼稚園。幼稚園に通園したことは必ず
しも環境だけの問題ではないが、幼稚園教育とその環境に接したと
いう意味で、これを文化性の問題としてとりあげた。(六) 親の教育程
度は、重要な文化的環境を構成するので、それに段階点を与えて数
値になおした。即ち、小学校卒を一とし、中学二、高等三、大学卒
四の数値を与え、その総合点を算出した。各地域の総合点は、千代
田七三三分、足立三一六点、川越三一七点になったので、それをそ
のまま十分の一とし、七三、三一、三一、三一、を各地域の親の教育程度
の文化度とみた。この六つの角度だけでは必ずしも充分とは考えら
れない。ことに経済的角度は重要なものではあるが、とりあげた六
つの角度の中にいずれも関連すると考えられるので一応割愛した。
以上六つの文化度を各地域別に合計してみた結果、換算された家庭
環境の文化度としては、千代田区の六七に比し、足立も地方も共に三
三という数が出ており、文化度の点においては、足立も地方も、都心

における文化度の約半分しか恩恵を得ていない結果になっている。しかし、そのような家庭の文化度は、そのまま学習においてこれと平行する成績結果を生んでいない事実が、単語検査や知的理解力に出てきた。

単語検査の分析 都会的なもの、地方的なもの、機械的なもの、天然自然、農業、商業、交通、食物、生活習慣など、およそあらゆる生活断面を代表することばを与えて、この理解程度を検出。

その結果は正解を示した%をとりあげて計算したが、それによると千代田区では、皆が共通に知っている単語が少なく、三五%以下の児童にしか知らない単語が半分以上を占めている。これと対照的なのが足立区で、三〇%以下の児童にのみ知られている単語というものは殆どない。五〇%以上の児童に知られている単語が半分以上を占めている。一方農村に存する小学校では、三〇、六〇%の児童に知られている単語が殆どを占めている。即ち、地方の方が、單語の得点は知識が平均しており、これは主として生活経験から得ているものであるといふことができる。この結果を数値におす換算法として、二五%の正解を得たものに試みとして一・五の値を、五〇%に二・五、七五%に三・五、七五%以上に四の値を与えて計算した。単語種類ごとにその項目について成績のいい順から一・二・三とみていくと、千代田は殆ど全部が三位になつており、足立区は一位が多く、川越がそれに続いている。このことは一応私共が最初考えたことは正反対の結果であり、意外としたところである。ただ、この成績だけで、各地域の文化度の効果の判定はできないであろうと考えられるが、この点については、更に研究を試みる。

知的理解力の分析 放送についての知識及び新聞の性質についての理解力など、千代田区は成績がよい。音楽家と曲名や、樂器につ

いては、千代田区は、他地域の六七倍も成績がよい。日常生活の生活経験を通して学ぶもの、例えば纖維の種類とか食料品の原料では、逆に地方の児童の方が成績がよい。しかし農業の特色について質問したり、製品の原料などをきくと、千代田区や足立区では、知識としてそれらを知つており成績がよい。

道徳判断検査についての調査は後日発表の予定。

まとめ 生活環境のなかで自然に獲得すると思われる単語検査においては、地方の方が知識が平均しており、一方比較的文化度の高いと思われる地域では、知的理解力また文化的な事物から得られると思う知識においてよい成績を得ている。要するに、東京都千代田区の児童は、両親とか書物などを通じて獲得する知識などに秀いでいるので、その知識や理解力に個人差が多く、これ以外の地域では、日常生活経験を通じて学習しているので、その知識理解力が平均している。

(大会抄録 113—118頁)

団地における乳幼児の精神発達

愛育研究所 望月武子
高橋種昭

目的、方法 最近団地生活の特殊性ということがしばしばいろいろな分野で言われている。そこで今回われわれは乳幼児の精神発達に、そうした団地生活の特殊性がどのように影響しているかをみると、一連の調査を計画実施した。

調査の対象としては東京都の北郊の団地を対象にし、生後六ヶ月